



岩橋 くるみ (いわはし くるみ)

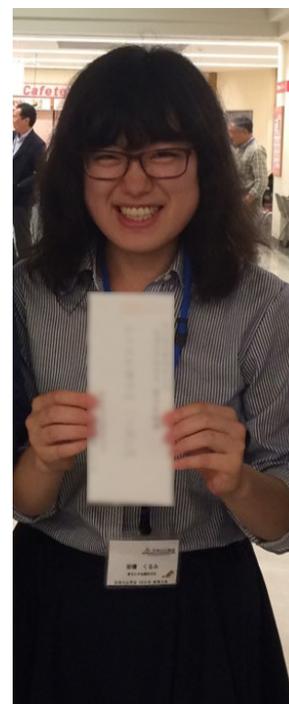
活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ

活断層・火山研究部門マグマ活動研究グループの岩橋くるみと申します。2020年3月に東京大学大学院地球惑星科学専攻で修士号を取得し、今年度修士型研究員として入所致しました。幼少期に浅間山の噴火を見たことがきっかけで火山の噴火現象に興味を持ち、現在まで火山を対象として研究を行ってきました。

これまでの研究では、雲仙火山の噴火(1991-95年・1792年・1663年)を対象として、物質科学の手法から火山噴火前のマグマ混合過程の解明を進めてきました。また、文科省認定の「次世代火山研究者育成プログラム」に参加し、自分の専門分野以外の分野である地球物理学・地球化学・社会科学(防災等)の基礎的な知識について、実習や座学を通じて勉強してきました。今後はこれまでの知識を活用しつつ、マグマだまりの描像の理解やマグマ混合過程の解明に向けて研究に取り組んでいけたらと考えております。

産総研は、様々な分野の研究者の方がいらっしゃり、日々沢山のことを学んでいける恵まれた環境であると感じています。この環境を活かして自分の専門をより深めつつ、一方で自分の研究の幅も広げていきたいです。

学部時代に先生から教えて頂いた言葉に、「一日生きることは、一步進むことでありたい」というものがあります(※)。これからは遠くの目標を見据えつつ、一方で自己研鑽を忘れずに、毎日一步でも進む気概を持ち続けて歩いていけたらと思います。これからどうぞよろしくお願ひ致します。 ※湯川秀樹さんの言葉



高田 モモ (たかだ もも)

地圏資源環境研究部門 地圏化学研究グループ

地圏資源環境研究部門地圏化学研究グループの高田モモです。地圏環境に関する環境動態評価および持続可能性評価が専門です。2016年に広島大学大学院総合科学研究科を修了後、地圏資源環境研究部門地圏環境リスク研究グループで1年半、産総研特別研究員を経験しました。その後は、筑波大学アイソトープ環境動態研究センター、量子科学技術研究開発機構でポスドクを経験し、この4月にテニュアトラック型任期付研究員として、またGSJに戻ってくることができました。

私はこれまで、福島原子力発電所事故後の福島で、土壌や河川水・地下水中の事故由来の放射性セシウムについて、環境動態研究や、動態研究につながるモニタリング法の開発、モニタリング技術の標準化について、野外での調査や室内試験をベースに取り組んできました。それに加えて近年、農山村地域における放射能汚染の社会影響に関する研究も開始し、地域の住民の方を中心に、インタビューやアンケート調査を実施しています。

今後は、研究対象をこれまでの放射能汚染だけでなく、地圏環境全般(例えば、休廃止鉱山や土壌汚染等)に広げ、汚染物質の環境動態評価や社会影響評価、また土壌汚染等評価・措置に関する各種試験法の標準化にも取り組む予定です。

一度GSJの外で研究を経験したおかげで、以前は気が付きませんでした。扱う研究テーマの幅広さというGSJの魅力を見ました。これまでの経験を活かしつつ、新鮮な気持ちで新しいことにチャレンジしていきたいと思ひます。GSJのお役に立てるよう、そして自分も成長できるように精一杯頑張りたく思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。





志村 侑亮 (しむら ゆうすけ)

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

地質情報研究部門層序構造地質研究グループの志村侑亮と申します。昨年の9月に名古屋大学大学院博士後期課程を短縮修了し、博士の学位を取得しました。4月より日本学術振興会特別研究員PDとして産総研に所属することになりました。

私は、陸上に露出する付加体と高圧型変成岩類を研究対象としています。付加体と高圧型変成岩類は、沈み込み帯の浅部・深部で形成した後、隆起や上昇することで陸上に露出します。これらさまざまな地質プロセスは、地質体中の変形構造として痕跡を残します。すなわち、付加体と高圧型変成岩類に記録されている複雑な変形構造を丁寧に観察し、切った切られた関係に基づき変形ステージ分けを行うことで、一連の地質プロセスの全貌が見えてきます。私は付加体から高圧型変成岩類までの沈み込み帯浅部～深部の地質体を対象とし、深度に応じた地質プロセスの違いを解明することに情熱を注いでいます。研究手法は、野外調査に基づく地質図の作成、露頭・顕微鏡スケールでの変形

構造解析です。地質図スケールから顕微鏡スケールまでを対象とすることで、より包括的な地質プロセスの理解を目指しています。

産総研に来てまだわずかではありますが、さまざまな分野の研究者の方々と交流することができ、日々刺激を受けています。自分の領域にとらわれず、新たな分野にも挑戦できる研究者になれるよう頑張りますので、皆様どうぞよろしく願いいたします。



田中 郁子 (たなか いくこ)

地質情報研究部門 平野地質研究グループ

この度、第15期イノベーションスクール生として、地質情報研究部門平野地質研究グループに着任した、田中郁子です。

これまでの経歴—博士号を取得後、神戸大学と京都大学で日本学術振興会特別研究員PDをしながら、共同研究のため英国で数年間滞在しました。研究継続のため英国で研究員となる予定でしたが、ロックダウンにより命からがら帰国することになり、その後最近まで筑波大学で助教をしておりました。

これまで、どんな研究を実施してきたのか—二足歩行動物の姿勢を明らかにすることが研究の目標です。研究の型は、鳥類の骨と筋肉(腱)を用いてモデルの作成をし、そのモデルの検証を、足跡と動画解析から実施し、それを絶滅動物(絶滅鳥類や恐竜)へ応用することです。最近の成果は、鳥足の関節運動の計測法の開発と、その足の機能(歩く、泳ぐ、獲物をつかむ、木に止まるなど)と回転運動とのリンクを明らかにしたことです。手法は、CT撮影、X線イメージング、アニメーション、フォトグラメトリ、動画解析、解剖などです。

ここでは、どんな研究を実施するのか—ヒトの手足の進化～にぎる、つかむ、つまむ～について、高度なCT解析技術による手足の機構の解明を目指したプロジェクトを実施する予定で

す。目的は、霊長類の手の動き、足の使い方を効率的に産み出す手足構造の仕組みの解明で、キーワードはテコの原理～小さな力で大きな回転力を産み出す仕組み～です。

地質情報研究部門には、CT技術の非常に高度なノウハウの蓄積があります。こちらで、最先端の解析技術の向上に努めたいと考えています。これからどうぞよろしく願いいたします。

